

# History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

# No.12

## 新野左馬助公の最期の地

新野左馬助親矩公の最期には諸説ある。永禄3年(1560年)に桶狭間で今川義元が戦死した後、遠州の国衆が次々に今川家から離反する中(「遠州谷劇」)、永禄7年(1564年)、今川氏真に反逆した引馬城主飯尾連龍を攻めるよう井伊家と左馬助公に命令が下る。井伊家では兵が足りず、今川家から兵2千の加勢を得て引馬城を攻めたが、古つわものの連龍は、矢や鉄砲を飛ばして防戦し、左馬助公は、9月15日に鉄砲に当たって城の東にある天間橋で討ち死にしたという。(故鈴木東洋氏は、安間川にかかる安間橋と推定している。)

また別の説では、翌年12月、氏真は和睦と見せかけ連龍を駿府に呼び出し、屋敷を攻めて暗殺するが、左馬助公はこの時に連龍を攻め討ち死にしたという説もある。

後日談として、連龍の死後、引馬城を守ったのが奥方のお田鶴の方で、永禄11年(1568年)12月徳川家康に攻められ奮戦するも、18人の侍女と共に壮絶な最期を遂げたという。彼女も一人の「女城主」であった。

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129



▲引馬城跡に鎮座する東照宮



▲東照宮にある家康と秀吉の「二公像」

◀椿姫観音 飯尾連龍の正室であるお田鶴の方を祭る

## 大河ドラマ「おんな城主 直虎」 応援プロジェクト

浜岡原子力発電所の訓練では、さまざまな機器が故障し、複数ある原子炉注水機能が全て喪失したという想定で、原子炉格納容器の破損を防止する訓練が実施されました。発電所内に「緊急事態対策本部」を設置し、放射線管理や情報収集など各班に分かれて原子炉の状況を確認するとともに



▲防災訓練の様子(中央制御室シミュレーター施設)

南海トラフ巨大地震や津波による原子力災害を想定した総合防災訓練が、10月17日、18日に中部電力(株)全社で実施されました。今回の訓練は、地震災害と原子力災害が同時に発生したという複合型災害を想定し、原子力災害に対応する「緊急事態対策本部」と広域停電などに対応する「非常災害対策本部」の2つの対策本部を立ち上げ、シナリオを社員に知らせない、実際の災害時に近い形での訓練を初めて実施しました。

に、名古屋市にある本店に設置された対策本部とテレビ会議システムを通じて、連携を確認していました。また、4号機の中央制御室を模擬した訓練用シミュレーター施設では、異常を知らせる警報音が鳴り響く中、運転員が緊急時の対応を一つ一つ確認しながら訓練をしていました。

# Atomic

暮らしと原子力

原子力災害を想定した  
中部電力(株)の防災訓練